

ハンディをもつ人の真の参画のために、北欧にも、不十分な分野がありま
スウェーデンのイエテボリで、知的なハン
った人々の組織「グルンデン」の人々
ら、政策決定への参画を保障する規則
不十分だ、という不満をきかされまし
し、グチに終わらせないのが北欧の人
いところ。『みんなが同じように
加できるようにするために』という冊
なハンディを負った人自身がつくって
っているのです。さわりを抜き書きし

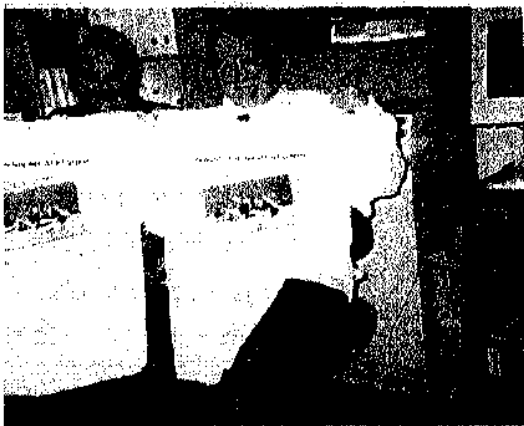
ちは読んだり書いたりすることが苦手
えておくことが苦手です。会議で話に
くのが大変です」

ちが参加しやすい会議にするために、
します。会議の前に知っておくべき情
の計画表と一緒に送らしましょう。一番
とを最初に書きましょう。はっきりと
よう。1行に1つの情報を書きましょ
長は最終的な決定を下す前に、次のよ
ましよう。みなさん、分かりましたか、
定に入ってもいいですか、最後の決定
きていますか」

ハンディをもっていない「ことになっ
々にも実に有益な助言だと思いにな
か？」

子をつくった「グルンデン」では、知
ィを負ったご本人たちが理事会を形成
導員」と呼ばれていた人々を雇用する
い切った挑戦をしていました。

ークでは知的なハンディをもつ人たち
から独立して「ULF(ウルフ)」とい
つくっていました。(写真4)は、独
スでの会長(右)と事務局長。手にも
のは、「私たちは指導員なしにこの夏
旅行を楽しみました。お申し込みは、
5へ」とプリントしたTシャツです。



は、デンマークの「でんぐりがえしプ
ット」のみなさんです。左のふたりは統
を病んでいる人、右は研修担当スタッ
ーフス県で精神医療福祉の仕事につ
このでんぐりがえしプロジェクトの人
研修を受けるしきたりです。幻聴や妄想
本で読むよりご本人から聞いた方がず
うがあります。病気のつらさも実感でき
こだし、病気を体験しさえすれば研修の
まれるわけではなく、面接試験があり、
る訓練もあるそうです。



☆30年前と今とで変わったこと

スウェーデンのストックホルムには、スタン
ダードルールを定着させるための国レベルの組
織がありました。そこを訪ねて驚きました。責
任者のラーシュ・リンドベリさんが33歳と若い
上に、強度の難聴者だったからです。部屋には
磁気ループが埋め込まれており、話しかける人
はマイクで話すので補聴器がうまく働き、ほと
んど不自由はないのだそうです。(写真6)



厚生省で立法に携わった後にここに移ったと
いう経歴にも驚かされました。「高校でも、私
ひとりのために先生はマイクを使ってしてくれま
したし、大学では手話もつけてくれました」

でも、昔からこうだったわけではありません。

スタンダードルールの生みの親でこの問題の
国連特別報告官のベンクト・リンクピストさん
は網膜色素変性症という病気で失明した身です。
高校生だった60年代には外国語の読めない父母
を含め一家総出でラテン語や英語を音読して本
人が点字でノートをつくりました。大学時代には
新聞広告でボランティアを募り教科書を読ん
でもらったのだそうです。

そんな日々の積み重ねで、リンクピストさん
は大学を卒業しました。普通高校の英語教師、
ラジオのディレクター、障害団体の全国組織の
代表をつとめ、国会議員に。85年から91年まで
名厚生大臣として国民の人気を集めました。

(写真7) 特別報告官のオフィスで、こう、話
しくれました。

「74年には一般に出版された本の2.5%しか
テープに吹き込まれませんでした。いまは、
大きな図書館が買い上げる年間5000冊の本の半
分が自動的に音声テープになり、残りの本も希
望があれば無料で吹き込む仕組みです。これを
実現させたのは視覚障害者団体で働いていた私
たちなのです」



日本は、「北欧の30年前」にいつまでとど
まっているのでしょうか？

<えにしネット・ホームページ URL>
<http://www.yuki-enishi.com/>

「あひだの住む町の安心感を測る100のチェックポイント」

「福祉が変わる医療が変わる」(ふどう社)

どりあえず、誰でも簡単に調べられる☆印のチェックからどうぞ☆(☆)(☆)(☆)

- ◆ 外出の楽しみを支える仕組み
 1. レストラン、店、学校、歯医者さんが、お年寄りや障害をもつ人に優しいバリアフリー
 2. 車椅子で走りやすい平坦な道路舗装
 - ☆3. 駅には、エレベーターと上り下りのエスカレーター (お年寄りや車いすより降りが大)
 - 4. 「福祉のまちづくり」や地域福祉計画策定に、様々な障害をもつ人たちが参画
 - 5. 聴覚の人たちのための契約筆記や手話サービスを快く提供 (高齢社会は聴覚社会)
 - 6. 舞台の音を聴覚利用者がくつきり聞くことができる磁気ループなどがホールや会
 - 7. 階段のないノンステップバスや車いす利用者専用車がある
 - 8. 車いすの人や知的なハンディキャップをもつ人を、街でよく見かける
- ◆ 食事を作れなくても
 9. 毎日宅配サービスがあり、食事会も(福岡県春日市では1975年からすでに)
 10. おいしくてあたたかく、選択できる (食事を作れずに、心ならずも入院・入所する
 - ◆ 最を過ごすサービス、デイケア、憩いの場、地域生活支援センターなど
 11. 障害のある人もお年寄りも通いやすい「憩いの場」や「居場所」が、小学校区に
(池田市では条件のあと宅前部の委託を地域生活支援センターとして借り上げました)
 - ☆12. 多様な活動があって選べる (「幼稚園風」は誇りを傷つけない)
 13. 早朝から深夜までの利用も可能
 - ◆ ホームヘルパーは
 14. 「さすが医療を受けたプロ」という仕事ぶり
 20. 様々な障害や病気、疾患に詳しい専門ヘルパーがいる(精神障害者のピアヘル
 21. 現場の職員と同等の待遇(秋田県鷹巣町のように)
 - ☆22. 男性のホームヘルパーがいる(この町ではこの仕事に将来性がある、将来的仕事で
 - ◆ 障害をもつ人も、年をとっても住みやすい家
 24. 住宅改修の申し込みが簡単で、仕事ぶりが誠実(電話1本で役場の担当者がきてく
 27. S.O.S.ヘルプ、食事付きでバリアフリーのケアハウスや公営住宅もある
 - ◆ 補助器具、福祉機器の提供システムは
 28. 上下するベッド、不自由を補う助具、車いすなどを貸し出す仕組みが身近に
 29. 作業療法士などが体に合わせてくれる(入れ歯と同じで、合わない車いすは有害
 30. 補助器具センターで納付することができる
 31. 補聴器を調整する専門家がいます
 - ◆ お年寄りや障害をもつ人のための施設や病院、グループホームや老老所
 32. 入居者が思い思いの髪型をしている(インガリの「ヘルメットカット」や「美容院
 - ☆33. 和服も含め、よく似合う服装をしている(昔着え、お洒落は、なによりのリハビリ)
 - ☆35. 障がい者がゼロ(においては、トイレ指導やオムツ替えを怠っている施設)
 36. 「寝かせきり」にしないで起こしている(いまだ、寝かせきりなら、劣等生)
 - ☆37. 病院風の白い壁、高い天井、長い廊下や食堂ではなく、住まいの雰囲気
 - ☆39. 馴染みの家具が持ち込まれた自分の空間と部屋の配置を組み合わせたユニットケ
 40. 入居者とスタッフが同じテーブルでゆったりと食事(チェーン店では、並べで
 - 風情なら後者)
 42. 夕食後も楽しみがあり、騒ぎ過ぎず
 43. 夜も入浴できる(「裸にして行列」は除外)
 - ☆44. 職員がゆったり、生き生き
 46. 衛生に熱心(入れ歯を取り上げる先遣員はありません。歯は誇りと健康の)
 47. かけつけのお医者さんや訪問看護婦さんと連携が取れている
 49. 不明な費用徴収がない(「地獄の砂浜も金次第」をにおおすなら、危ない)
 - ☆51. 町の中にある(町はずれや工業地帯に施設をつくる先遣員はありません)
 53. 近所づきあい、買い物、散歩、喫茶店、居酒屋の利用などで、地域にだけ込んで
 55. ボランティアが楽しげに出入りし、入居者も心から楽しみにしている様子
 60. 一人一人の人生をよく知り、誇りを大切に、さりげなく支えている。
 - ☆67. 玄関ホールや理事長・施設長室は質素、居室にお金をかけている
 58. 閑散経営の色彩がなく、居室がガラス張り
 - ☆59. お年寄りや障害をもつ入居者がいい笑顔
 60. 市長、町長、知事さんが暮らしやすくなることだ
 - ◆ 病院・診療所・訪問看護ステーションは
 61. 「自宅で最期まで暮らしたい」「自宅で死を迎えたい」という願いを理解し、か
 62. 福祉サービスをよく勉強している
 63. お医者さん、歯医者さんが気軽に往診し、訪問ナースやヘルパーとパートナー
 65. 歯科医、歯科衛生士が障害者科や高齢者科に経験と情熱
 66. かけつけ医や訪問看護婦と夜も連絡できる
 67. 縛り、閉じこめたり、寝かせきりにしたり、口から食べられるのにチューブ
 - が近隣にない(あれば、あなたもいずれはそこへ)
 - ◆ 地域福祉計画・障害者プラン・介護保険事業について
 69. 公開の場で、住民がサービス水準や介護保険料を決め、住民が納得
 70. 介護保険の最低基準に甘んじることなく、「横だし」「上乗せ」のサービスを用意
 71. 家族がいなくても自宅で暮らせるサービス水準を一般財源からも拠出して保障
 75. 保険料や利用料が払えない人のために、きめ細かな仕組みを独自に作った
 77. 計画づくりや見直しの変遷に、様々な障害をもつ人、介護を体験した人、
女性委員が参加している。
 - ◆ 役場の担当者や在宅介護支援センター、ケアマネージャーは
 78. 入院中から退院後のサービスを計画
 - ☆79. 行政が「出前」「御用聞き」の姿勢
 81. たらひ回しせず、一カ所で相談や手続き
 83. 保健所が、老人病院や精神病院の実態を利用者の身になって、難しく調べ公
 84. 障害者の自立生活センターの知恵も借り、当事者の目線で行政
 85. 介護事業者や施設の詳細な情報を集めて公開、こまめに更新
 86. 草の根グループのNPO法人化を支援
 87. 医療や介護サービスの質をチェックする機関(オンブズマンなど)を作り、立ち
補限を与えている(大阪では、当事者とボランティアによる精神病院への「ぶ
 - ◆ 市町村議会や審議会は
 89. 住民に不要なハコモノづくりより保育や福祉や人材に関心のある議員が沢山
 - ☆90. 委員会や審議会が公開されている
 91. メンバーに女性が大勢いる
 - ◆ 市長さん、町長さん、知事さん、議員さんは
 92. 障害をもつ人やお年寄りを社会のみんなを支えた方が、家族の愛情が枯れない
 94. ホームヘルパーの待遇を高める姿勢
 95. 手続きの簡素化のために機構改革をした
 96. 選挙のとき福祉を唱えるだけでなく、実際に福祉予算を増やした。
 98. 腐敗り行政を築き直そうとしている
 99. ヘルパーや介護施設を自分自身も利用する可能性があると考えている。